

auto fashion import

欧州ユーザーのリアルスタイルを直撃

af imp.

10

2017 October
¥500
www.kctsu-times.jp/afimp/

--- RACE REPORT

SPA 24HOURS
WRC
SUPER GT
EURO CUP 9HOURS
Idlers 12HOURS

Aut Messe 1/feb
<http://www.automesse.co.jp>

GERMAN TUNE REPORT
30周年を記念したGMFVチューナー
AC SCHNITZER
VLS25 & VLS8 Sport
E.P.C.E.



欧州事情

Real Euro Users

BMW SYNDIKAT ASPHALTFIEBER

世界最大の祭

GTI TREFFEN am WÖRTHERSEE

--- 中古車輸入販売のリアル

BMW MINI
ターゲットは初代&2代目

この秋冬に着たい
輸入車乗りのためのFASHION

EC SPEC

問●EC SPEC TEL.092・406・1414 www.ec-spec.jp

Mercedes-Benz G500 cabriolet & GLS63



af imp.
PRO SHOP
WORKS

コントラスト鮮やかに 新旧SUVを愉しむ

九州を代表する老舗プロショップ「イーシースペック」には多種多様な欧州車がやってくる。最近ではボルシエやランボ、フェラーリあたりがビットスベースに収まることも珍しくないが、以前と変わらずメルセデスファンが多いのも同店の特徴といえる。ただ以前と変わったのが在庫してくるボディ形状で、メーカーラインアップが大きく変化したこともあり、徐々にSUVの比率が高まってきているという。

今回紹介したいのは、新旧SUVの頂点ともいえるG500カブリオレとAMG GLS63の2台だ。Gクラスに関しては分厚い実績があるためどんなリクエストにも応える用意があるが、さすがに最新モデルのAMG GLS63となるとゼロから構築する必要がある。しかも今回はオーナーの「派手になりすぎないよ

[イーシースペックが作り出すメルセデス・スタイルの今]

世代の異なるメルセデスSUVを 鮮やかにイマドキのスタイリングに導く

イーシースペックが得意とするメルセデスのなかでも、もっともホットなのが新旧SUVのこの2台。

最新のGLSはチューナー系アプローチでサラリと、

Gクラスはハイブランドでコッテリとカスタマイズを楽しんでいる。

写真&文◎浦野浩之



ゴリゴリにパンチを効かせたインパクト仕様

Mercedes-Benz G500 cabriolet



↑ホイールはマンソリーの22インチモデル。センターキャップが常に平行を保つ機構も独特。サイドダクトもマンソリー製だ

↑グリルやヘッドライトもマンソリーに交換済み。似通ったスタイリングになりがちなGクラスだがハイブランドで差をつけた



↑左右サイド出しのマフラーもマンソリー製。スクエアな薄型ツイン出しで、迫力のあるサウンドもインパクトあり



↑リアバンパーはフェアリーデザインをベースに制作した。ボトムにカーボンを配してスポーツムードも高められている



↑フロントバンパーはAMGを使用し、ボトムラインをマンソリー製リップと一体化させた超ゴージャス仕様

↑フェンダーはAMG63に変更し、足まわりはマンソリーの減衰力切り替え式ダンパーに交換済み



↑至る所にカーボンパーツを覆り、スポーティな雰囲気を醸し出している。なかでもサイズが大きいタイヤカバーはインパクトも絶大。内装もマンソリーのカーボンで統一されていた

SPEC_Mercedes-Benz GLS63

エクステリア
フロントスポイラー AMG63
リアアンダースポイラー フェアリーデザイン
マンソリー・カーポントリップスムービング
&カーボンフロントリップ
ヘッドライト/ボンネットダクト/
Fグリル/サイドモール
バンパーカバー/ドアアウトハンドル
ドアミラーカバー/
テールレンズ・スベアタイヤカバー
AMG G 63フェンダー
インテリア
カーボンステリアリングセンターカバー
シフトノブ マンソリー
AMGカーボンインテリア
ブラバス/バルシフト・カーボン加工
足回り
ホイール:マンソリー F:9.5J×22インチ
インセット42 R:10.5J×22インチ インセット42
ショック:マンソリー

どがマンソリー製というのも密かなアソビ要素のひとつで、このあたりは知る人ぞ知るといふか、価値が判る人からすると「マジかよー」なポイントであり、クルマの格からしても相応しいアレンジといえるだろう。メーカー謹製のG 63なんてやり込み感満点のライバルがいることを考えれば、これぐらい手数を投入したカスタマイズもアリだと思おう。

当然ながらオーナーの意向が大前提ではあるが、世代のまったく異なるメルセデス SUV を鮮やかにイマドキのスタイリングに導く手間は見事の一言。イーシースペックでも定番となつているカスタム系鍛造ホイールをあえて使わず、それでいてキッチリと個性を感じさせるカタチに仕立てたあたりには、時代の半歩先を見据える老舗プロショップらしい視点の高さを感じることが出来た。



↑ホイールはブラバスモノブロックYの23インチモデルをセレクト。アメ鍛系にはない落ち着いた雰囲気を求めた



↑足回りはノーマルのエアサスをロリンザー製モジュールを使ってローダウン。ロワリングキットよりも乗り心地に優れており、高価ではあるがGLS63に相応しい足回りといえる



↑フロントにはプロテクションフィルムを施工しており、本来はマットのラインが艶を帯びている

↑ホイールのリム部には鍛造23インチを示すパッチが埋め込まれている。これぞハイエンドの証だ

チューナー系23インチで圧巻の足回りを実現 Mercedes-Benz GLS63

SPEC_Mercedes-Benz GLS63
足回り
ホイール:ブラバス モノブロックY
11J×23インチ
タイヤ:コンチネンタルUHP
305/30
スプリング:ロリンザー エアサスマジュール



もう一方のGは対照的だ。目指したのはゴリゴリにパンチを効かせたインパクト仕様。といってもド派手なカラーリングに頼るのではなく、あくまで街に乗りつけても浮くことなく、クルマ好きの視線をクギ付けにするのが狙いだ。ホイールを含めハイブランドのマンソリーを軸に据え、AMGやフェアリーデザインなど純正やJ'sブランドも巧みに使い分けている。シルバードディに対して引き締め効果の高いカーボン素材も大量に投入しており、そのほとん

「最初は北米ブランドの鍛造ホイールも考えましたが、どれを選んでもいいずれば似通った雰囲気のGLSが出ていることを考え、今回はあえてチューナーモノでいこうと。ベースがAMGということでホイールは性能に優れた鍛造モデルは必須と考え、サイズ的にも23インチを選ぶことで明確に差別化できたと思います」とイーシースペックの井口さん。リム幅は11Jに及び、タイヤも前後305サイズとあって迫力満点。さらにロワリングキットによるローダウンではなく、高価ではあるがロリンザー社のエアサスマジュールを使用することで、車格に相応しい乗り味と低さを両立している点にも注目したい。

まずは大注目のAMG GLS 63から。こちらは前述の通りなるべく抑制の効いたカスタマイズで、誰ともカブらないスタイリングが求められるという、ある意味でもっともシヨップの腕が試される一台だった。「最初は北米ブランドの鍛造ホイールも考えましたが、どれを選んでもいいずれば似通った雰囲気のGLSが出ていることを考え、今回はあえてチューナーモノでいこうと。ベースがAMGということでホイールは性能に優れた鍛造モデルは必須と考え、サイズ的にも23インチを選ぶことで明確に差別化できたと思います」とイーシースペックの井口さん。リム幅は11Jに及び、タイヤも前後305サイズとあって迫力満点。さらにロワリングキットによるローダウンではなく、高価ではあるがロリンザー社のエアサスマジュールを使用することで、車格に相応しい乗り味と低さを両立している点にも注目したい。



↑取り扱うホイールブランドはサイズオーダーが可能な海外鍛造ブランドが中心。HREやフォージアートのハイブランドが並ぶ

EC SPEC

様々なジャンルに精通する九州きっての老舗ショップ

写真&文◎浦野浩之

**エアロパーツ人気が復活の兆し!!
新型車のホイール製作も得意技**

欧州車専門店として20年以上の歴史を持ち、いまや九州を代表するプロショップとなったイーシースペック。ヤフオクドームに程近い現在の立地に移転して約9年、以前から中心に据えてきたアウディ&メルセデスに加え、最近ではフェラーリなどのスーパースポーツ系を含め、様々なジャンルの欧州車に向けたカスタマイズメニューを提供している。メニューの中心は足回り、なかでもホイールのセットアップには絶対の自信をみせる。個性派ユーザーが

集う同店では人とは違ったホイールを求められることが多く、また新型車両を扱うことも多いため、デザインやサイズの自由度が高いカスタム系鍛造ホイールを活用しているのも大きな特長だ。海外のホイールメーカーとのコネクションを利用して、国内では実績のない新型車のホイール製作も得意とする。また同店ではここに来てエアロ人気も復活の兆しを見せており、カーボン素材を使ったエアロパーツを提案することが増えてきたとか。その場合も有名無名を問わず様々なブランドからパーツを取り寄せてくれるというから、なんと頼もしい限りだ。



↑こちらはまだまだ人気のAMG C63。しっかりとロワードした足元にはハイパーフォージドHF-LC5を装着していた



↑ブラックアウトによって剛性を増したC63フロントマスク。ボトムにはマンソリーのカーボンフロントリップを装着してハイクラス感をアピールする



↑取材当日のピットスペースにはボルシェ・カイエンが。イーシースペックには多種多様なメーカーのハイエンドモデルが集う

EC SPEC

◎福岡県福岡市中央区地行3丁目26-62
TEL.092・406・1414
www.ec-spec.jp
◎10:00~20:00
◎日曜、第2月曜定休



ヤフオクドームからほど近い現在の立地に移転してきて約9年。アウディ&メルセデスを中心にハイクラスな欧州車が県外からも集う人気店だ。凝ったワンオフ対応などにも対応できる懐の深さも魅力



↑九州の欧州車カスタムを牽引してきた井口代表(左)と息子の拓也(右)が店を切り盛りする。さすが親子だけあって息もピッタリ!

